



Newsletter

vol. 50

新理事長ご挨拶 ●

ボランティアスタッフ養成講座 ●



新理事長ごあいさつ

渡邊佐知子

みなさん、こんにちは。2024年6月、菱田前理事長の後任として、特定非営利活動法人子どもセンター「パオ」の理事長に就任しました渡邊佐知子です。名古屋市職員として約40年、保健・医療・福祉の施策に取り組み、中央児童相談所長を務め退職しました。現在は、児相の一時保護所に入所中の子どもたちの安全・安心を保障し権利擁護を図る「安全委員会」の活動を続けています。パオでは2020年から理事として、微力ながら運営に関わっています。

パオの設立から一貫して力を尽くしてこられた初代理事長の多田さんや前理事長の菱田さんをはじめ、多くの支援者や理事、スタッフ、パートナー弁護士、事務局の皆さんが辿ってこられた足跡の大きさを思うと不安と責任の重さを痛感しています。



パオの歩み

「パオ」は2007年に子どもシェルター「丘のいえ」を開設しました。虐待や暴力、いじめ、不登校、少年非行などで困難を抱え、家庭に居場所がない10代後半の子どもたちのための緊急避難場所です。

児相に勤めていたある夏の夜、虐待を受けて警察に駆け込んだ高校生と中学生のきょうだいがいました。

中学生の子は一時保護所に入りましたが、18歳の子は法律上一時保護できないため、生活困窮者の施設を利用せざるを得ませんでした。また一時保護所に入れない、入りたくない子どもや、少年院を出た後に行き先が見つからない子どももいます。10代後半から20代にかけての社会資源は非常に乏しく、制度の狭間にいる子どもたちの支援に大変苦慮していました。

「丘のいえ」(定員5名)では、子どもたちが安全で安心できる場所と感じてもらえるよう、一人になれる部屋と温かいご飯、24時間体制で支援するスタッフがいて、まずは疲れた心と身体を休めてもらっています(スタッフ不足から現在休止中)。

利用はおおむね2か月としていましたが、「パオ」に来てくれる子どもたちは深い心の傷を負っているためもう少し時間をかけて心身の回復を図り、前を向く力を取り戻す場所が必要ということになり、2011年に別の場所にステップハウス「ぴあ・かもみーる」(定員5名)を開設しました。

「ぴあ・かもみーる」も「丘のいえ」と同様、児童福祉法上の自立援助ホームですが、働くことを前提としないで、子どもの自立・自律に向けて生活支援を行っています。収入がない間は利用料などは免除されます。門限が午後6時であったり、スマートフォン使用のルールが他の施設より制限があるなど、さまざまな意見はありますが、スタッフや子ども同士のコミュニケーション、一緒に食事をしたり過ごす時間をできるだけ大切にしてほしいというパオの想いが込められています。

「丘のいえ」と「ぴあ・かもみーる」を合わせると、2024年3月末時点で、約120名の子どもたちが利用してくれました。